

### 1. 地形・地質的特徴

山津窯跡は中海の西岸にあり、背後には嵩山・和久羅山系の山塊が迫っている。中海は全国5番目の水域面積を持つ湖沼で、砂州によって湾の一部が海から隔てられた潟湖（海跡湖）である。嵩山・和久羅山系は、およそ500～600万年前（鹿野ほか，1994）に形成された火山岩（和久羅山安山岩）からなる山系で、中海から宍道湖、出雲平野まで連なる低地帯を狭窄する形で存在している。

今回の調査範囲の地形は、その中ほどに北から南へ延びる尾根があり、西側には小規模な谷底平野が広がり、東側は山すそに中海が迫っている。尾根部分について、調査範囲は尾根が南北に分断された形の鞍部になっていて、西側の谷底平野との比高は数mしかない。人為的な切り通しのようにも見える地形だが、後で延べるように、この部分で2万7,000年前頃の湿地的な堆積物が確認されており、自然地形であることは確かである。

地質的にみると、尾根部の上部には和久羅山安山岩が分布し、その下位には1,000万年前頃に形成された松江層の砂岩がある。調査範囲は、後者の砂岩の分布域で、尾根の東側（中海岸）では表土の直下にその風化部が露出している。尾根部には上記の湿地的な堆積物の下位に、その西側では礫を主体とする扇状地堆積物の下位に砂岩が分布している。

### 2. 自然史的事象について

#### (1) 始良T<sub>n</sub>火山灰層

尾根部にあたる調査区（山津遺跡F区）では、遺物包含層の下位に泥質の地層が確認された。この地層は灰色～暗灰色の泥層と、有機物を多含する暗茶～黒褐色の層が互層している。有機物質の層準には材片が多く含まれる。これは、層相（地層の特徴）から、基本的に湿地的な条件で堆積した地層（以下、湿地堆積層という）とみられ、特に暗色部は組織の残存状態が良好な材片が多いことからみて、ほとんど乾燥を受けない環境で形成されたと判断できる。この地点は、鞍部ではあるが尾根の一角で、調査範囲で最も高い場所である。そこに湿地的環境が形成されていたことについては次のように考えられる。

南北に延びる尾根を横断する形で谷（鞍部）が形成された。その谷の出口付近には北側の山地から流れ出た土砂によって形成された扇状地が発達し、谷を閉塞した。それによって谷は水が滞留しやすくなり、湿地的環境となった。

湿地的環境の形成はこのように解釈できるが、鞍部の形状自体も変則的である。蛇行河川による穿窟はまず考えられない地形条件で、尾根を横断して直線的な深い谷が形成されていることは、単純な浸食作用では説明が困難である。この鞍部の東側延長上には、約1kmにわたって直線的な急傾斜の湖岸が続く。谷の北側斜面も同様の急傾斜地で、一連の直線地形（リニアメント）と判断できる。このような直線地形は断層運動の結果形成されることが多い。すなわち、この鞍部は断層上にあり、その運動と断層破碎帯の浸食によって形成された可能性が考えられる。

次に、湿地堆積層に挟まれる火山灰層について述べる。湿地堆積層の上部に、厚さ約15cmのガラス質火山灰層が挟まれる。火山灰層は、色調と粒度の違いから2ユニットに区分でき、下部ユニットは乳白色で細粒砂～極細粒砂サイズの粒子からなる。上部ユニットは明灰色で中粒砂サイズから細粒砂サイズまで上方へ細粒化する構造が認められる。この火山灰は大部分がバブルウォール型と呼ばれる形状で無色透明の火山ガラスからなり、その特徴から始良カルデラ（鹿児島湾付近）が約2万7,000年前に起こした巨大噴火によって供給された始良T<sub>n</sub>火山灰（AT）と判断できる。本地域周辺で陸上堆積層中にATが存在する場合、黄色い風化色を呈していることが普通である。当地では、湿地堆積層に挟まれていたため、ほとんど風化せずに新鮮な色調を示していたが、これは稀な例といえる。

## (2) 扇状地堆積物・段丘堆積物

尾根より西側の調査区（A～D区）では、礫を主体とする扇状地性の堆積物が確認された。φ10cm程度までの角礫～亜円礫を主体とし、斜交層理が認められた。トレンチで確認された範囲において、その大部分は最終氷期最盛期（1万6,000年前）以降の堆積物とみられるが、C区の一部で未固結の礫層の下位に、風化色と地層の固結の程度から段丘堆積物とみられる地層が認められた。地形的にみると、尾根の裾に沿って、一段高い平坦面がある。C区の北側からD区は、地形的にはこの平坦面上にある。この面は最終氷期最盛期以前（最終間氷期か？）に形成された低位段丘に相当すると考えられる。出口部に段丘が残存していることは、AT降灰以前の段階（2万7,000年前以前）で尾根部に形成された谷の出口が閉塞気味になっていたという上記の推定と調和的である。それは以下のことによる。

氷期中に相当する2万7,000年前前後は、一般的には海面低下に伴って陸上では浸食作用が卓越する。したがって、主谷（ここでは扇状地堆積物の分布域）に合流する支谷（ここでは尾根鞍部の谷）の出口が閉塞される確率は低いと推定される。しかし、支谷の出口に段丘が存在していれば、谷の地形勾配は緩やかだったことになる。その場合、谷の出口部分に斜面崩壊などによって土砂が堆積することで、支谷は容易に閉塞し得ると考えられる。

## (3) 地滑りによる窯跡の変形

J区では、窯が不自然な形状で検出された。その詳細は、本文317～324ページに述べられている。この不自然な形状について、窯の下方に円弧滑りの末端で形成されたとみられる小規模な断層が認められ、側方にも水平方向にずれているとみられる箇所があることから、窯の検出部分は地滑り土塊とともに上方から移動してきた可能性が高い。

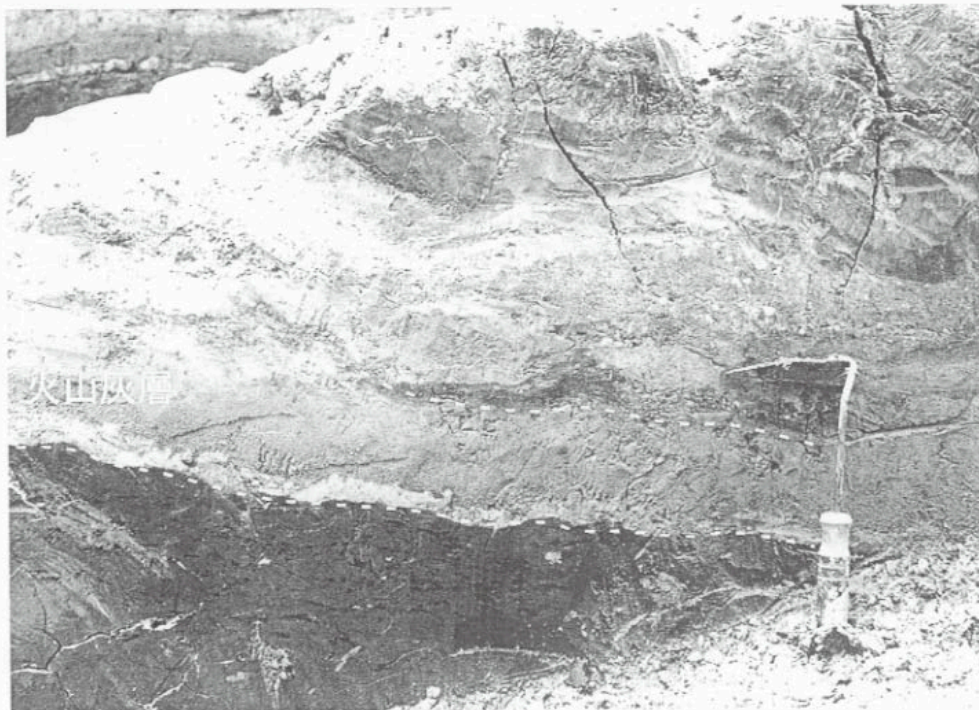
J区付近は、上記のように松江層の砂岩が分布している。この砂岩の風化部は表層の地滑りを起こしやすく、その分布地の斜面は地滑り地域に指定されていることが多い。松江層の分布域に限られるわけではないが、本地域周辺では、発掘調査で地滑りによって変形した遺構が検出される例がしばしばある。例えば、田和山遺跡では環濠が地滑りによってずれている箇所が認められている。

鹿野和彦・山内靖喜・高安克己・松浦浩久・豊 遥秋（1994）松江地域の地質、地域地質研究報告（5万分の1地質図幅）、地質調査所、126p.





挿図写真1 山津遺跡F区の堆積層  
下部の暗色部に材片と腐植を多含する。



挿図写真2 AT火山灰層の産状  
山津遺跡F区で確認されたAT火山灰層。ねじり鎌の長さは約25cm。

## 報 告 書 抄 録

フリガナ	オオイカマアトグン ヤマヅカマアト・ヤマヅイセキハックツチョウサホウコクシヨ		
書名	大井窯跡群 山津窯跡・山津遺跡発掘調査報告書		
副書名	一般県道本庄福富松江線(大海崎工区)新世紀道路ネットワーク整備事業(改良)に伴う発掘調査報告書		
シリーズ名	松江市文化財調査報告書	巻次	第104集
編集者名	藤原 哲		
著者名	飯塚康行・石川 崇・一瀬久嘉・江川幸子・小林謙一・新免歳靖・関 和彦・竹内博史・時枝克安・中村唯史・中村亮二・春成秀爾・平石 充・廣濱貴子・藤原 哲・渡辺正巳(五十音順)		
編集機関	松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団		
所在地	〒690-8540 島根県松江市末次町86番地		Tel(0852)55-5294
	〒690-0886 島根県松江市母衣町180-21番地		Tel(0852)28-2065
	Fax(0852)28-2038		E-mail: maibun@web-sanin.co.jp
発行日	2006(平成18)年 3月31日		

所在遺跡	所在地	遺跡No.		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		松江市	島根県					
山津窯跡	松江市大井町地内	G017	D222	35° 28	133° 8	2001.6.18 ～ 2005.6.10	7,262㎡	道路拡幅

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山津窯跡	窯跡	古墳～	須恵器窯・灰原	須恵器・土師器・	
山津遺跡	散布地	平安時代	石列・小道・土坑	石器	

松江市文化財調査報告書 第104集

### 大井窯跡群 山津窯跡・山津遺跡発掘調査報告書

一般県道本庄福富松江線(大海崎工区)新世紀道路ネットワーク整備事業に伴う発掘調査報告書

第1分冊

2006年 3月31日

編集・発行 財団法人松江市教育文化振興事業団

印刷 (株)谷口印刷